

「 Make Standard ! 」

近年の歯科医療は大きく変遷し、患者からの要望は高度化を呈するとともに多様化の一途をたどる傾向にある。

アナログからデジタルの変換機に私たち歯科技工士に求められることは

ただ単に歯を作るのではなく、患者の要望に対し歯科医師、歯科衛生士との連携が図られ同じベクトルを持つチーム医療の一員としての自覚を持つことであり、その目的成就に邁進することである。

日常の歯科技工業務において最善のゴールを目指すためには、診療サイドからもたらされる正確な情報と、患者の口腔内を正確に再現した模型を入手し、なおかつ補綴作業は診療室とラボ 各ステップで共通のマニュアルを持ち相互理解しながら 診療、補綴作業を進めることが最も重要であると考えます。

今回は、診査診断から補綴物口腔内装着までを追いながら 「PCを活用した資料の分析」

「各ステップでの診療サイドとのコミュニケーションのとり方」「印象材の取り扱いと歯列模型製作」等の内容を述べさせていただき

Standard(規範) の確立を皆様と一緒に目指したいと思います。

(社) 日本歯科技工士会 認定講師

一般社団法人 和歌山県歯科技工士会 学術理事

橘

勝一